



令和2年度 3学年だより

第2号
発行日
令和2年5月13日(水)
発行者
第3学年

毎朝、新型コロナウイルス関連のニュースを確認することから始まる日々です。4月に登校した際、生徒たちに今回の件について尋ねてみると、「家族が感染しないか心配」「部活動ができない」「デマを流さないでほしい」「テレビはコロナばかり」という不安や不満の声が多く出てきました。また、一方で、「勉強時間が増えた」「手伝いの時間が増えた」「家族と話す時間が増えた」「趣味が増えた」という明るい話も聞くことができたのが救いです。今後も予断を許さない状況が続きますが、家庭と学校とが協力して子どもたちをサポートできればと思います。

◇令和2年度の目標◇

生徒たちに令和2年度の目標を漢字1字で表してもらいました。今年は《学校の柱となる最高学年》ということで、「コウ」の読みを持つ漢字に限定したところ、以下のような結果になりました。休校が続く、不安を抱えながらのスタートでしたが、しっかりと目標を定め、前向きに取り組もうとしている生徒たちの姿が見えてきます。

人気の漢字ベスト5

第1位	「幸」	12票
第2位	「考」	8票
第3位	「康」	6票
第4位	「向」	5票
第5位	「高」	4票
〃	「行」	4票

〔この漢字を選んだ理由〕

- ・みんなと過ごせる最後の1年をたくさん楽しんで、**幸**せな時間を共有したい。／受験で憂鬱になるときもあるだろうが、最後は**幸**せに！
- ・これからの自分の人生をよく**考**えたい。／最高学年として後輩の手本となるように**考**えて行動したい。
- ・大事な時期なので、**健康**でいたい。／コロナに負けない**健康**を手に入れる！
- ・進路に向けての勉強など前**向**きに自分なりに頑張りたい。／学力**向**上！！／夢に**向**かって進む！
- ・勉強や部活動で**高**みを目指していきたい。／**高**校生活最後の1年、**高**学年として悔いの残らないように**高**の1年にしたい。
- ・口だけでなく自ら**行**動する年にしたい。／最後の学校**行**事を全力で取り組みたい。

【その他に選ばれた漢字】

「功」「公」「口」「広」「絞」「孝」「効」「紅」「後」「硬」「工」「香」「光」



◇5月の予定◇

25日(月)短縮40分授業 ①I②B③E

※これ以降の予定は随時お知らせします。

※5月中のパン販売はありません。

なお、4月に予定していた保護者対象進路説明会は中止といたしました。代わりに、本日生徒が持ち帰る「進路の手引き」によく目を通していただけたいと思います。今後の三者面談において担任から補足説明をさせていただきます。



日本学生支援機構の予約奨学金の手続き

- ・必要書類は生徒に配付済みです。
 - ・**6月23日(火)放課後**に学校のパソコンを用いて、一斉に入力し、申請します。※**1週間以内**に必要書類を簡易書留で**各自郵送**することになっております。
 - ・事前に、借りの費用、保証人のことなど御家族でよく話し合ってください。
 - ・必要な情報は事前に「てびき」に記入しておいてください。(保護者の収入など、生徒には分からないものがあります。)
- ※国の教育ローンを借りる場合は、各御家庭で申し込みを始めてください。



ちょっと一息ついてお読みください。

宮地尚子さん（精神科医、一橋大学大学院教授） 寄稿文の紹介

新型コロナ ～揺れる自分と相手認める～

今みんながいちばん困っているのは、一貫性がないことだ。社会だけではない。自分の感情や判断にも一貫性がない。揺れ幅が大きすぎる。

一カ月前には「騒ぎすぎじゃないの？」と思っていた自分が、あっという間に「これはやばい」と思うようになり、でもやっぱり時々「騒ぎすぎ？」という疑問が頭をもたげる。

一週間前には「情報をたくさん集めて最悪の事態に備えた方がいい」と思っていたのが、「情報にさらされても翻弄（ほんろう）されるだけだから」とシャットダウンぎみになり、でもまたニュースサイトにかじりついて疲れはてる。

二日前には、不安が高まってスーパーで買い込みをしたのに、昨日は、買いだめをしたあさましい自分に恥じ入り、今日は「でもやっぱりもっと買わないと」と思ってしまう。

さっきまで、「インフルエンザ程度だからおびえなくてもいい」と思っていたのに、友達の友達に感染者が出たと聞くと、途端におびえはじめる。

身近な人と衝突が起きることも少なくない。非常時における緊迫感には個人差が激しいが、そのうえに、相手も自分も揺れ幅が大きい。タイミングのズレもある。

「出かけるのは危ないんじゃないの？」と聞くと「人の少ない公園なら大丈夫だよ」と言われ、次の日に「何時に出かけるの？」と聞いたら「そんな悠長なこと言ってる場合じゃないよ」と返され、「昨日大丈夫って言ったのは、そっちなのに！」と憤慨する。そんなことが、あちこちの家庭でたぶん起きている。

一貫性のない自分は恥ずかしい。でも、それは自然なことだ。非常時には人間の揺れ幅が大きいものだ。揺れないほうが不自然だし、不健康だ。そのことを認めよう。相手もそうだとすることを認めよう。ただそれだけで、私たちはお互いに優しくなれるはずだ。

もちろん、「舌の根が乾かないうちに」ころころ立場を変えるコメンテーターや、「朝令暮改」の政治が良いわけではない。ただ、今は、意見が異なる人や、見通しの違う人との間での感情的な応答はなるべくしないほうがいい。私たちは予測不能な状況にいる。一貫性は、予測可能な時のぜいたく品である。

そして、道徳的な判断も避けたほうがいい。接することのできる情報はそれぞれ違う。人によって抱える事情もそれぞれ違う。簡単に言える事情など、たいした事情ではない。外を楽しそうに歩き回っている（ように見える）人が、重い持病と闘っているかもしれないし、介護に押しつぶされそうになっているかもしれない。見えないところで、あなたの食を、医療を、福祉を、街の清潔を守ってくれているかもしれない。